



## 弱視、斜視は早期に発見を！

### 「弱視」とは？

赤ちゃんは生まれたばかりの時は、明るいか暗いか位しかわかりません。人間の視力は赤ちゃんの頃からいろいろな物を見ることによって、それが刺激と発達していきます。6歳ごろまでに成人なみに発達します。

健康に視力が発達するためには、両目を同時に正しく使って見る、ということが重要です。

しかし、この視力が発達する時期に適切な刺激が得られないと、視力の発達が妨げられてしまいます。このように視力が悪い状態で止まってしまうことを「弱視」といいます。

小児 50 人に一人とされ、決してまれではありません。

弱視の原因としては、**屈折異常（主に遠視・乱視）**や**斜視、不同視、長時間の眼帯**などがあります。

3歳児健診でこれらが見逃されることが多いのが問題で、十分な視力が得られないまま成長してしまいます。

弱視も発達障害と同じく、**早期発見・早期治療**が重要です

でも、小さなお子さんや発達キッズの場合、検査自体が難しいことも多いです

「指さしができない」「理解ができない」「じっとしてられない」「話が聞けない」など・・・  
このたび、このようなケース非常に有用な器械

を導入いたしました。

お母さんに抱っこされた状態でも、たった数秒で近視、遠視、乱視、不同視、斜視などの異常を検出することが可能な検査機器  
(対象：生後6ヵ月～大人)です。

## 「スポットビジョンスクリーナー」



お子様に近づきすぎない為、嫌がらずに検査可能です。  
斜視の検診にも有用です。

★こんな症状ありませんか？

- ・ テレビを見るときに目を細めたり、首をかしげたりする
- ・ 何となく、目の位置が真ん中でない気がする
- ・ 絵本などに集中するのが苦手
- ・ テレビを見る位置が異常に近い
- ・ つまづきやすい、転びやすい
- ・ 絵や物、人を見まちがえることがある
- ・ 視力検査などで目を隠すのを極端に嫌がる
- ・ 階段を異常にこわがる
- ・ 3 歳児検診などで視力不良や斜視ではないかと指摘をされた

などの症状がある場合には、一度検査を受けることをおすすめします。

3 歳児健診や就学前健診などで視力検査がうまくできなかったなど、お子さんの視力について気になる場合は、お気軽に当院へご相談ください

61.